

2024 年度四国支部活動開催報告

主 催：公益社団法人日本語教育学会、四国大学
開 催 日：2024 年 12 月 14 日（土）13:00～16:30
会 場：四国大学 TAG・RI・BA スタジオよりライブ配信
参加人数：26 名（会員 18 名、一般 8 名）

今年度 3 回目の四国支部活動は四国大学と合同開催とし、登壇者がスタジオに集まり、発表やディスカッションをライブ形式で配信するという形でオンライン開催しました。

近年、日本語教育推進法、日本語教育の参照枠、日本語教育機関認定法等が次々と制定され、今年度は機関認定や登録日本語教員の制度が開始されました。このような大きな流れの中、四国支部では日本語教育・支援人材の実情について発信し、参加者と共に課題や展望を考えたいという活動を計画していました。一方、四国大学では今春 1 期生を輩出したばかりの日本語教員養成課程について、開設から今までを振り返り今後の人材育成のあり方を考える公開シンポジウムを計画しており、目的を同じくする両活動の合同実施について検討を重ねた結果、本活動の開催に至りました。

「四国で求められる日本語教育人材養成について考える」という全体テーマのもと、第 1 部では「四国大学における日本語教員養成－開設から今まで－」について、四国大学の教員養成課程開設に携わった 3 名の教員（城本春佳氏、元木佳江氏、山崎寛子氏）から報告があり、鳴門教育大学 田中大輝氏により総括が行われました。第 2 部では、「今これトーク 日本語教育人材養成について ローカルな視点から考える」と題してトークセッションを行いました。広島大学大学院 永田良太氏がモデレーターを務め、人材を養成する側（四国大学 城本春佳氏）、養成された人材を採用する側（穴吹ビジネスカレッジ 畑ゆかり氏）、地域で活動する人材養成に関わる側（徳島県国際交流協会 野水祥子氏）からそれぞれ現状報告があり、ブレイクアウトルームでディスカッションが行われた後、参加者からの質問に答える形で意見交換会を行いました。

人材を育成する側、その人材を受け入れる側、多くのボランティアに支えられている地域の日本語教室といった立場の異なるパネラーの話を通じてのみならず、参加者から質問や意見をいただくことにより、現場の実情や課題がより明確化しました。例えば、「大学の理念や地域の特性を活かした教育」の大切さ、「国家試験合格が大きな目標である一方、知識や技術を有するのみならず、現場で考え臨機応変に対応できる人材が求められている」こと、「日本語教員になりたいのになれない人がいる一方で、公募をしても人材が集まらない日本語学校がある」というミスマッチ、依然として「日本語教員だけでは生活していくことが難しい」待遇面の現状、等です。これらは一朝一夕に解決はできませんが、より良い共生社会をと望む関係者が共通認識を持ち、情報共有や連携をしていくことで、少しずつでもその地方にあった日本語教育・支援を展開していきたいという思いを新たにしました。

今回は参加者 26 名中 8 名が四国外の方で、海外からのご参加もありました。日本語教育従事者はもとより、多様な立場の方々のご参加くださり、闊達な意見交換につながりました。四国大学松重和美学長、ご登壇・ご参加くださった方々、運営スタッフの皆様、この場を借りてお礼申し上げます。



（報告者：四国支部活動委員 塩井実香）